

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

国立天文台教官公募

1. 助手1名
2. (1) 電波天文学研究系  
(2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 電波天文学（太陽電波分野）  
電波天文学研究系（太陽電波分野）では、電波ヘリオグラフによる太陽電波の観測的研究及び「ようこう」衛星による太陽X線の観測的研究を行っています。また、次期太陽観測衛星 SOLAR-B 計画推進の一翼を担うとともに、宇宙電波分野と協力して将来計画としての LMSA（大型ミリ波サブミリ波干渉計）計画立案にも参画しています。これまでの研究分野にこだわらず、電波ヘリオグラフ及び「ようこう」による観測的研究、若しくは上記の将来計画をも睨んで観測装置の開発研究に意欲的に取り組む若手研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（研究内容概要を含む）、(3) 研究論文リスト及び主要論文別刷（共著論文には役割分担を付すこと）、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書（この場合も(1)～(5)の概要がわかる書類が必要です）
8. 平成9年9月30日(火)
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台長 小平桂一  
(2) 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山  
国立天文台電波天文学研究系 小杉健郎  
Tel: 0267-98-4478 FAX: 0267-98-2506
10. 封筒の表に「電波天文学（太陽電波）助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

国立天文台教官公募

1. 助手1名
2. (1) 太陽物理学研究系  
(2) 東京都三鷹市
3. 太陽・天体プラズマ物理学  
太陽物理学研究系では、「ようこう」衛星のX線観測及び三鷹・乗鞍の地上光学観測により、太陽物理学及び天体プラズマ物理学の観測的・理論的研究を行っています。また、2003年度打ち上げをめざす次期太陽観測衛星 SOLAR-B 計画を推進すべく、搭載望遠鏡（可視光・磁場望遠鏡、X線望遠鏡など）の開発準備を進めています。今回の公募では、この SOLAR-B 計画において、プロジェクト全般の推進、観測装置の開発、観測的・理論的研究に積極的に取り組む若手研究者を求めます。これまでの研究分野は問いません。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（研究内容概要を含む）、(3) 研究論文リスト及び主要論文別刷（共著論文には役割分担を付すこと）、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書（この場合も(1)～(5)の概要がわかる書類が必要です）
8. 平成9年9月30日(火)
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台長 小平桂一  
(2) 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山  
国立天文台太陽物理学研究系主幹 小杉健郎  
Tel: 0267-98-4478 FAX: 0267-98-2506
10. 封筒の表に「太陽物理学助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

研究助成

平成10年度 笹川科学研究助成について

標記の募集要項が天文学会にきておりますのでお知らせします。

対象：人文学・社会科学及び自然科学（医学を除く）、または、それらの境界領域に関する研究。

研究期間：平成10年4月以降に着手し、平成11年2月までに終了し、成果がまとめられる研究とする。

助成額：1研究課題あたり年間100万円以内。

資格：(1)平成10年4月1日現在大学院生、又はそ

れと同等以上の能力を有するもの。

(2) 研究教育機関において研究活動活動に従事する。

(3) 平成 10 年 4 月 1 日現在 35 歳以下の者。

募集期間：平成 9 年 9 月 1 日～10 月 31 日（必着）

申請様式問い合わせ先：

(財) 日本科学協会 笹川科学研究助成係

〒105 東京都港区虎ノ門 1-11-2

第 2 船舶振興ビル 3 F

TEL：03-3502-1931 FAX：03-3580-8157

E-mail：LDG01360@niftyserve.or.jp

## 平成 1998 年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者及び研究助成候補者の推薦依頼

「女性科学者に明るい未来をの会」から標記の依頼が届いております。詳細は下記事務所までお問い合わせ下さい。

### 猿橋賞

1. 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者（ただし、下記の推薦締切日で 50 歳未満）に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞金（30 万円）をそえます。
3. 本賞の贈呈は 1 年 1 件（1 名）です。
4. 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（400 字程度）、略歴、主な業績文献リスト、主な論文別刷 10 編程度をそえて、下記事務所までお送りください。
5. 締切は 1997 年 11 月 30 日下記事務所（必着）。
6. 第 18 回の賞贈呈式は、1998 年 5 月、東京において行う予定です。

### 研究助成

1. 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者に対し、研究助成をいたします。
2. 助成金は 1 件 10 万円とし、年に数件とします。
3. 所定の用紙に推薦対象者（各締切日において満 40 歳未満）の略歴、研究業績、国際会議名（主催団体、開催場所、年月日）、発表論文題目、推薦理由等を入力して、下記事務所までお送りください。
4. 締切は 1997 年 11 月 30 日と、1998 年 4 月 30 日の 2 回。下記事務所（必着）

事務所：女性科学者に明るい未来をの会

東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217

電話 03-3330-2455 (FAX 兼用)

★提出用紙は日本天文学会事務所に用意してあります。

## 研究会・集案案内

### 「冷却 CCD を利用した超広視野撮像観測による宇宙地球科学」研究会 開催と参加講演募集のお知らせ

近年、冷却 CCD の高性能化がすすむとともに入手が非常に容易となり、諸分野で急速に普及しつつあります。従来の大型天体望遠鏡との組み合わせによる天文学分野への利用だけではなく、小型望遠鏡やカメラレンズなどの組み合わせによるさまざまな大規模構造の広視野天文観測（彗星、黄道光、対日照、銀河系、ガンマ線バースト等の光学モニター）、魚眼レンズのような特殊光学系との組み合わせによる全天撮像による地球惑星科学（夜天光、大気光、大気潮汐、中緯度オーロラ）が新たに始まりつつあります。しかしながら、「広視野」という特殊性により、フラットフィールド補正の困難さ、光量校正の方法の難しさなどが問題になっているばかりでなく、目的対象天体以外のものが写り込むために、データ処理の際にどうしても他分野の知識が必要になるなど、研究を進めるにあたり、その扱いに困る状況が生まれています。これらの状況を踏まえ、冷却 CCD を用いた広視野撮像観測を行っている研究者がその「分野」を越えて集まり、互いの研究手法、ノウハウなどの情報交換をすることはたいへん有益と考え、この研究会を企画しました。関係諸分野のみなさまのご参加をお待ちしています。8 月末日を講演申し込み締め切りとします。

世話人一同 渡部潤一（国立天文台、彗星撮像）、中村卓司（京都大学、大気光撮像）、祖父江義明（東京大学、銀河系広域撮像）、向井正（神戸大学、黄道光撮像）、岡野章一（極地研、オーロラ撮像）

日程：9 月 24 日（水）～9 月 25 日（木）

場所：国立天文台講義室（東京都三鷹市大沢 2-21-1）

問い合わせ：国立天文台 渡部潤一

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台広報普及室

電話：0422-34-3644 FAX：0422-34-3810

電子メール：watanabe@pub.mtk.nao.ac.jp

### 電波天文台特別公開のお知らせ

TEL 03-3467-7201

国立天文台  
電波天文学研究系  
野辺山宇宙電波観測所  
野辺山太陽電波観測所

1. 日時 1997年9月23日(火・祝)  
午前10時～午後4時
2. 内容
  - (1) 見学：通常の見学コースの他、45 m望遠鏡の観測室、10 m 6素子干渉計の観測室、電波ヘリオグラフの観測室、観測データを処理する計算機を見学できます。
  - (2) 展示：宇宙からやってくる電波をとらえる観測装置の仕組みや、最近の観測結果を展示します。
  - (3) 講演：「宇宙に開く電波望遠鏡「はるか」」  
11：00～12：00  
川口則幸（国立天文台助教授）  
対談：「宇宙の学習から何を学ぶか」  
13：30～15：00  
田原博人（宇都宮大学 教育学部長）  
黒田武彦（兵庫県立西はりま天文台台長）
  - (4) その他：質問コーナー等

3. 交通
 

鉄道 JR 小海線・野辺山駅下車 徒歩3分  
車 中央道 東京方面から須玉インターより国道141号線を経て約40分 名古屋方面から小淵沢インターより八ヶ岳有料道路・国道141号線を経て約40分 上信越道 佐久インターより国道141号線を経て約80分

☆入場無料  
☆恐縮ですがうわばき（スリッパ等）を各自ご持参下さい。  
☆観測所内に食堂はありませんが、講演会場の南牧村農村文化情報交流館にはあります。  
☆最新の特別公開日の情報はインターネット WWW でもご案内しております。

URL=<http://www.nro.nao.ac.jp/open-day>  
問い合わせ先  
〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山  
国立天文台野辺山  
電話：0267-98-4300（代表）

### 国際シンポジウムのご案内

#### 「Numerical Astrophysics 1998」

主催：国立天文台  
日時：1998年3月10日(火)～3月13日(金)  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
〒151 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

内容：このシンポジウムは、数値シミュレーションを手段とした天体物理の研究における最近の研究成果を探求することを目的としています。ここ数十年、数値シミュレーションは天体物理を研究する強力な手段となってきました。数値シミュレーションは、天体で起こっている複雑な物理現象や、観測や実験でとらえることのできない極限的な物理状態に非常に有益な情報を与えてくれます。理論的研究に携わる天文学者にとって、コンピュータはまさに「理論の望遠鏡」の役割を果たしてくれます。このシンポジウムでは、数値シミュレーションが我々に広げてくれた天体物理に対する理解、および、今後数値シミュレーションによって我々が挑戦すべき課題を議論します。

- セッション：
1. 天体物理に関するセッション
    - 宇宙論（銀河形成、大規模構造の形成）
    - 銀河（銀河の相互作用、活動銀河、銀河進化）
    - 星惑星形成（重力収縮、原始惑星系円盤）
    - 降着円盤とジェット
    - 超新星、中性子星、およびブラックホール
    - 太陽および恒星の大気／内部構造
    - 太陽系（太陽風、惑星磁気圏）
  2. コンピューター科学に関するセッション
    - 数値計算法（流体力学、磁気流体力学、放射流体力学、自己重力系、一般相対論）
    - 計算結果の可視化技術
    - 数値シミュレーションに有益なコンピューター技術

- Scientific Organizing Committee:
- A. P. Boss (Carnegie Inst., USA)
  - J. Franco (UNAM, Mexico)
  - J. F. Hawley (U. Virginia, USA)
  - W. Hillebrandt (MPI fuer Astrophysik, Germany)
  - A. L. Melott (U. Kansas, USA)
  - S. M. Miyama (chair: NAO, Japan)
  - T. Nakamura (Kyoto U., Japan)
  - K. Nomoto (U. Tokyo, Japan)
  - A. Nordlund (Copenhagen U., Denmark)
  - M. L. Norman (U. Illinois, USA)
  - J. P. Ostriker (Princeton U., USA)
  - K. Sato (U. Tokyo, Japan)
  - S. L. Shapiro (U. Illinois, USA)

問い合わせ先：  
国立天文台理論天文学研究系  
観山正見 (SOC chair)  
fax 0422-34-3746 nap98@yso.mtk.nao.ac.jp  
ホームページアドレス：  
<http://diamond.mtk.nao.ac.jp/nap98/>

シンポジウム「中性子星とパルサー」

日時：1997年11月17日(月)～11月20日(木)

場所：立教大学太刀川記念館

内容：「中性子星の形成」, 「超高密度での物質の状態方程式」, 「中性子星の内部構造と超流動」, 「中性子星の進化」, 「パルサー磁気圏の構造と放射機構」, 「パルサー風の放出機構と性質」, 「パルサーネビュラ/粒子加速/放射機構」, 「連星系の進化とミリ秒パルサーの形成」, 「パルサーのまわりの惑星」

定員：100名程度

参加費：15,000円

連絡先：立教大学理学部 柴崎徳明

電話 03-3985-2389

理化学研究所 河合誠之

電話 048-467-9336

★詳細は <http://www.riken.go.jp/lab-www/cosmic/pulsar97> をご覧ください。

第三回 RESCEU 国際シンポジウム

「素粒子的宇宙論」

主催：東京大学理学系研究科・初期宇宙研究センター (COE)

組織委員長：佐藤勝彦

日時：11月10日(月)～11月13日(木)

場所：東京大学 山上会館

内容：初期宇宙の各分野の第一人者による講演を中心として議論を行なう。○量子宇宙論○インフレーション ○アクシオン○超対称粒子とダークマター○バリオン生成○超弦理論とブラックホールエントロピー, 等々

講演・参加申込締切：1997年9月20日(土)

参加費：1万5千円(一般), 1万円(学生)

連絡先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部物理学教室 白水徹也

e-mail: [siromizu@utaphp1.phys.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:siromizu@utaphp1.phys.s.u-tokyo.ac.jp)

電話：03-5802-3359 FAX：03-5684-9642

★詳しい情報は

<http://www.utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~siromizu/resceu-sympo-e.html>

会務案内

重要!

正会員各位

社団法人 日本天文学会  
理事長 奥田治之

1997年度秋季総会開催のお知らせ

— 同封の返信用葉書で9月10日(水)までに到着するようご投票を! —

下記の通り1997年度秋季総会を開催いたしますので、ご出席くださるようご案内申し上げます。総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席される場合には、下記の議案および説明をよくお読みの上、次の(1)または(2)のどちらかの対応をしてください。いずれの場合も、総会出席と同等とみなされます。

(1) 同封の総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。

(2) 他の出席予定の正会員に表決権の行使を委任する。

「葉書」は、9月10日(水)までに天文学会事務室に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。なお462ページの「投票および委任状の書き方」を参照して下さい。

1997年度秋季総会

日時：1997年9月30日(火)16時00分～18時00分

場所：宇都宮大学共通教育B棟1121

議案1. 1996年度収支計算書の承認

議案2. 1998年度事業計画書・収支予算書の承認

議案の内容と説明：

第1号議案 1996年度収支計算書の承認(天文月報1997年7月号339頁～341頁参照)

第2号議案 1998年度事業計画書および収支予算書の承認(以下の資料1および資料2を参照)

【資料1】

1998年度社団法人日本天文学会事業計画書

1. 出版物の刊行

1) 日本天文学会欧文研究報告第50巻第1号より第50巻第6号までの計6冊の発行とその配布。隔月刊、A4版、発行部数1650、年間960ページを予定。

2) 天文月報第91巻第1号より第91巻第12号までの計12冊の発行とその配布。月刊、B5版、発行部数3200、毎号52ページを予定。

3) 年会講演予稿集

春・秋季年会の予稿集各1巻、発行部数700を予定。

4) 日本天文学会会員名簿の発行。発行部数3500を予定。

2. 年会・総会

1) 春季年會を1998年3月16日(月)～18日(水)にわたって、東京都立大学(八王子市)にて開催する。年會期間中に通常総会を開催する。又、公開講演會を予定。

2) 秋季年會を1998年10月1日(木)～3日(土)にわたって、山形大学(山形市)にて開催する。

年会期間中に通常総会を開催する。又、公開講演会を予定。

3. 評議員会・理事会

評議員会 1月(下), 7月(中), 及び春・秋季年会会場にて開催予定。

理事会 1月(中), 7月(上), 及び春・秋季年会会場にて開催予定。

4. 各賞の授与

1) 天体発見賞・天体発見功労賞

1998年度における新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功労賞を授与する。

2) 日本天文学会研究奨励賞

特に顕著な研究成果を挙げた若手研究者を選定し研究奨励賞を授与する。

3) 日本天文学会林忠四郎賞

林忠四郎氏からの寄付金により、天文学の分野において独創的で、かつ分野に寄与するところの大きい研究に対して林忠四郎賞を授与する。

4) 日本天文学会欧文報告論文賞

日本天文学会欧文報告に掲載された論文の中から、特に優れた論文の著者に対して欧文報告論文賞を授与する。

5. 助成金

1) 内地留学奨学金受給者の募集(主にアマチュアを対象)10月に選考委員会を開き、人選の上奨学金を支給する。

2) 学術交流と研究補助

☆賛助会費による学生の年会旅費補助。

☆早川幸男基金を初めとする会員からの寄付金により、海外の学術集会・観測等のため渡航する学生への旅費補助を行う。

6. 委員会の開催

1) 欧文研究報告編集委員会

委員長:有本信雄

2) 天文月報編集委員会

委員長:末松芳法

3) 年会実行委員会

委員長:加藤万里子

4) 評議員選挙管理委員会

委員長:野口邦男

5) 教育委員会

委員長:沢 武文

6) 天文教材委員会

委員長:戎崎俊一

7. 後援事業

1) 1998年秋に行われる国立天文台の一般公開を後援する。

2) 他の学術団体の天文関係諸企画に対して可能な限り後援する。

【資料2】

1998年度収支予算書

(1998年1月1日～1998年12月31日)

【一般会計】

収入の部

(単位:円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
基本財産運用収入	70,000	60,000
基本財産利息収入	70,000	60,000
会費収入	33,360,000	25,088,000
正会員会費収入	16,070,000	11,800,000
学生会員会費収入	4,610,000	3,500,000
準会員会費収入	12,150,000	9,450,000
団体会員会費収入	530,000	338,000
事業費収入	23,800,000	17,735,000
欧文研究報告発行事業収入	13,450,000	11,340,000
購読料	5,040,000	4,170,000
掲載料	6,110,000	5,250,000
別刷代	2,300,000	1,920,000
天文月報発行事業収入	5,000,000	3,620,000
購読料	1,050,000	760,000
別刷代	350,000	260,000
広告料	3,600,000	2,600,000
年会事業収入	5,350,000	2,775,000
予稿集頒布収入	1,900,000	1,100,000
参加費	3,000,000	1,500,000
雑収入	450,000	175,000
補助金収入	5,300,000	5,200,000
文部省刊行補助金収入	4,400,000	4,000,000
公開講演会補助金収入	900,000	1,200,000
寄付金収入	50,000	50,000
寄付金収入	50,000	50,000
印税収入	2,600,000	1,800,000
星座早見印税収入	2,000,000	1,500,000
その他の印税収入	600,000	300,000
雑収入	1,280,000	1,135,000
受取利息	80,000	35,000
特別企画収入	300,000	200,000
その他の収入	900,000	900,000
繰入金収入	573,612	607,326
消費税繰入	573,612	607,326
当期収入合計(A)	67,033,612	51,675,326
前期繰越収支差額	22,135,013	25,300,687
収入合計(B)	89,168,625	76,976,013

支出の部 (単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
事業費	48,540,000	36,230,000
欧文研究報告発行事業費	22,760,000	19,160,000
直接出版費	15,420,000	12,850,000
別刷印刷費	920,000	770,000
人件費	3,800,000	3,400,000
謝金	770,000	790,000
送料運搬費	1,600,000	1,100,000
消耗品費	200,000	200,000
雑費	50,000	50,000
天文月報発行事業費	18,380,000	13,270,000
直接出版費	10,700,000	7,700,000
別刷印刷費	380,000	320,000
人件費	1,050,000	900,000
謝金	2,470,000	1,800,000
送料運搬費	3,000,000	2,000,000
消耗品費	560,000	400,000
雑費	220,000	150,000
年会事業費	7,400,000	3,500,000
予稿集印刷費	2,600,000	1,300,000
謝金	1,200,000	600,000
送料運搬費	600,000	300,000
会場費	1,200,000	700,000
消耗品費	500,000	300,000
人件費	1,000,000	0
雑費	300,000	300,000
I A U 準備費	0	300,000
準備費	0	300,000
管理費	24,130,000	14,940,000
人件費	8,300,000	6,300,000
謝金	300,000	260,000
会議費	300,000	200,000
負担金	170,000	150,000
租税公課	1,700,000	1,500,000
旅交通信費	1,300,000	800,000
送料	2,300,000	900,000
消耗品費	1,500,000	1,500,000
印刷製本費	1,000,000	600,000
光熱水料	1,800,000	400,000
賃借料	250,000	180,000
保険料	1,500,000	1,150,000
諸手数料	100,000	100,000
修繕費	200,000	150,000
書籍購入費	500,000	0
特別企画費	600,000	400,000
雑費	110,000	100,000
有価証券購入支出	250,000	250,000
内地へ繰入金支出	1,200,000	0
繰入金支出	250,000	0
基本金支出	0	3,000,000
基本金支出	0	3,000,000
特定預金支出	1,680,000	671,000
退職給与引当預金支出	180,000	171,000
減価償却引当預金支出	1,500,000	500,000
予備費	15,318,625	22,135,013
当期支出合計(C)	89,168,625	76,976,013
当期収支差額(A-C)	△ 22,135,013	△ 25,300,687
次期繰越収支差額(B-C)	0	0

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
学術交流費	収入の部		
	賛助会員会費収入	2,000,000	1,500,000
	受取利息	1,500	1,500
	当期収入合計(A)	2,001,500	1,501,500
	前期繰越収支差額	982,917	484,417
	収入合計(B)	<b>2,984,417</b>	<b>1,985,917</b>
	支出の部		
	学術交流費	2,000,000	1,000,000
	雑費	3,000	3,000
	当期支出合計(C)	2,003,000	1,003,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 1,500	498,500	
次期繰越収支差額(B)-(C)	<b>981,417</b>	<b>982,917</b>	
内地留学奨学金	収入の部		
	基本財産利息収入	48,000	25,000
	繰入金収入	250,000	0
	当期収入合計(A)	298,000	25,000
	前期繰越収支差額	30,636	8,636
	収入合計(B)	<b>328,636</b>	<b>33,636</b>
	支出の部		
	奨学金支出	250,000	0
	雑費	3,000	3,000
	当期支出合計(C)	253,000	3,000
当期収支差額(A)-(C)	45,000	22,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	<b>75,636</b>	<b>30,636</b>	
研究奨励賞	収入の部		
	寄付金収入	200,000	50,000
	受取利息	2,000	2,000
	当期収入合計(A)	202,000	52,000
	前期繰越収支差額	5,433,414	5,383,414
	収入合計(B)	<b>5,635,414</b>	<b>5,435,414</b>
	支出の部		
	研究奨励賞支出	100,000	0
	雑費	2,000	2,000
	当期支出合計(C)	102,000	2,000
当期収支差額(A)-(C)	100,000	50,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	<b>5,533,414</b>	<b>5,433,414</b>	
早川幸男基金	収入の部		
	寄付収入	500,000	100,000
	受取利息	130,000	50,000
	当期収入合計(A)	630,000	150,000
	前期繰越収支差額	16,369,655	17,429,655
	収入合計(B)	<b>16,999,655</b>	<b>17,579,655</b>
	支出の部		
	研究補助支出	2,000,000	1,200,000
	雑費	10,000	10,000
	当期支出合計(C)	2,010,000	1,210,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 1,380,000	△ 1,060,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	<b>14,989,655</b>	<b>16,369,655</b>	
林忠四郎賞	収入の部		
	受取利息	100,000	100,000
	当期収入合計(A)	100,000	100,000
	前期繰越収支差額	16,681,082	16,631,082
	収入合計(B)	<b>16,781,082</b>	<b>16,731,082</b>
	支出の部		
	林賞支出	400,000	0
	雑費	50,000	50,000
	当期支出合計(C)	450,000	50,000
	当期収支差額(A)-(C)	△ 350,000	50,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	<b>16,331,082</b>	<b>16,681,082</b>	

### 「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない正会員は、綴じ込みの総会返信用「葉書」で(1)議案に対する賛否の意志表示をするか、または、(2)出席する本会の正会員に表決権を委任して下さい。賛否の意志表示をされる方は、それぞれの議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて事務室宛にお送り下さい。どの場合にも、会員番号、氏名(自署)、印、住所または連絡先(略称可)を明記して下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えません。

- 1) 所定の「葉書」を用いないもの。
- 2) 会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 氏名を自署していないもの。
- 4) 投票権のない者からの投票。
- 5) 2重投票

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票

委任状については、次の場合に無効となります。

- (1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- (2) 委任正会員の会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- (3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- (4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- (5) 被委任正会員として、単に役職名の“理事長”または“議長”とか書かれたもの。

### 第9回日本天文学会研究奨励賞受賞候補者の推薦について

本会は、優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しております。本賞に関しては、

1. 受賞資格
  - 1) 日本天文学会正会員で、最近3年間における天文学への寄与が顕著なる者
  - 2) 当該年度内で35才以下の者。
2. 賞 本賞は、賞牌(メダル)及び賞金を併せ授与する。となっています。平成9年度の受賞候補者の推薦状を1997年10月31日(必着)までに、日本天文学会研究奨励賞選考委員会宛に、お送り下さい。委員会では、推薦された方の中から研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦致します。なお、推薦の際、主要論文リストも添付していただければ幸いです。

宛先：〒181 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内  
日本天文学会 研究奨励賞選考委員会宛  
TEL：0422-31-1359 FAX：0422-31-5487

編集委員	末松芳法(編集長)、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大
平成9年8月20日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話(0422)31-1359(事務室)5488(月報・欧文編集)5487(FAX専用)	振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	<a href="http://www.tenmon.or.jp">http://www.tenmon.or.jp</a> 月報編集 e-mail: <a href="mailto:gjjimu@tenmon.or.jp">gjjimu@tenmon.or.jp</a>